

全国コンテストで受賞

気軽に回路設計体験を

システムと簡易教材製作

有明高専



関市長に受賞を報告したメンバーら

「第1回高専GIRLS SDGs×Technology Contest(高専GC CON 2022)」本選に大牟田市萩尾町の有明工業高等専門学校(八木雅夫校長)から「サーキットデザインGirls」チームが出場し、「高専60周年記念賞」を受賞した。6日に同市役所で受賞報告があり、リーダーの糸永遥さんらが関好孝市長に喜びを報告した。

GC CONは高専制度60周年を記念し初めて開催された。女子学生が中心となり、日頃の研究の中からSDGs(持続可能な開発目標)を中心にさまざまな社会課題の解決に向けたアイデアをプレゼンテーションした。全国の高専から90チームがエントリーし、予選審査を突破した10チームが1月15日に東京で開かれた

本選に進んだ。有明高専は情報システムコースICラボから、糸永さん、秋吉菜乃加さん、渡辺和輝さん、高口結衣さん、下川麻亜さん、西山心優さんが「しなやかな半導体・集積回路教育を目指すーサーキットデザイン&メタバースな未来ー」のテーマで参加した。「サーキットデザイン」

は同高専の石川洋平准教授が回路設計をもっと若者に親しみやすく表現したいと提案した造語。プレゼンでは「生活に不可欠だが難しいイメージがあり、供給不足・人材不足が問題になっている集積回路設計を身近に感じてもらえるものを作りたい」と、初心者や子どもにも気軽に回路設計や、その楽しさを体感できるように製作した、システムと簡易教材を紹介した。市内でシステム体験会が予定されている。

この日はこれまでの取り組みを紹介し、本選の動画も上映。関市長は地元学生の活躍を喜び、「この内容を今後市内でも体験できるというところで、大牟田から皆さんの後に続く人材が出て、若い力で大牟田を盛り上げてほしい」と伝えていた。共同研究を行った企業に就職が決まっているという糸永さんは「大会に出た経験を生かして、卒業後も半導体技術者育成に関わっていきたい」と話していた。

(益田 明徳)